

今日は職員からふるさと創生1億円の使用みちについて自由に何でもいから話してもらいたい。町民と職員から募ったアイデア(4、5ページ)はあるが、まだどうするか白紙の状態だ。今日結論は出せないと思う。最初の会議なので、言いたいことを言ってみよう(前山総務課長)

「ふるさと創生1億円は国からもらったと受け取められてるが、そうではない。交付税として町に入るわけで、すなわち「血税」だということ肝に命じなければならぬ。竹ヤブに落ちていた金ではない」

「アイデア競争に陥らず、黒崎町に何が必要かを考えたい」

「1億円にこだわることはないので。必要なら2億円の事業に使ってもよいのでは」

「今年度だけの交付であり後で負担にならない使い方をしたい」

「1億円を使おうと思えば各課に1千万円ずつ分配して10の課でそれぞれが使えばいい。人がやるのではなく、自分たちがやるんだと思わないといけない」

「黒崎町でソフト事業を考えると、町民のまとまりのなさがある。連帯感がない。さっきの児童公園の話ではないが、公園を造ってもだれも草取りをしない」

「公園が出来ると子供が来るとさうさう言う住民がいる」「町に関心がない」「だから、この1億円は関心を持ってもらえらる使い方をしないといけない」

「花いっぱい運動がいいと思う。少しずつだが成果が表われてきている。参加者も増えているし」

「緑もほしい。アイデアにも多い。青年会議所が入学式のと看、さきんかの苗を一年生にあげている。町も各世帯に植樹を頼んだら」

「並木を造ると葉が落ちて困るとい声が出る」「温水プールは維持管理が大変だ」「そういうことをいっている

「借り、200万円で維持していけば年に一つづつ公園が出来ると運用益でいくか、使ってみようか」

「継続性のある事業が国はよいと考えているようだ」

「いい事業には来年度以降もお金を出すようなことを国はにおわせている」

「人材育成がよいのではないか。運用益でできるし継続性もある」

# 必要なのか

## 委員会/会議語録

## ふるさと創性検討

# 町に何が

「住民は強い関心を持っていて。住民参加の行政のよい機会にしたい」

「今日は職員だけ集まったが、住民を含めた委員会を設けるべきでは」

「住民ニーズにこたえるのは当然だし、最終的には議会に諮るわけだが、黒崎町の問題を一番よく知っているのは職員だと思う」

「住民からアイデアを募集した。これだけでおしまいではなく、今後もしは聴かなければならないと思う」

「最終的にどう決めるのか」

「住民参加や委員会を作っても、いつも事務局の役場の案で決まってしまう」

「今年度中に決めればよい。あせる必要はない。まんせんと住民の意見、住民の意見といても決まらない。アイデアを募集したし、10なら10の案をここで決めて、それをまた住民の委員会をつくり、諮らうか」

「ここにあるアイデア(4、5ページのアイデア)をどう活用していくか。一つ一つ」

町では「ふるさと創生検討委員会」という19人の職員から成るプロジェクトチームを作った。1億円を何に使おうべきかを検討しています。最初の会議を5月12日に開きました。2時間半にわたる会議の内容をお知らせします。1億円の使いみちだけでなく、現在の黒崎町が抱えるさまざまな問題や住民と行政のあり方など数々の発言がありました。これら

の問題を町民の皆さんからも、じっくりと考えていただきたいと思ひます。

ればできる。並木と花だけでなく彫刻を置きたい」

「文化にやっぱり使いたい」

「先ほどの金巻の池の公園だが、投資効果がそれほどあるとは思えない。造っても人が来ないのでは」

「確かに投資効果を考えないとだめだ。場合によっては1億円を超してもよいと思う」

「もっと町民全体が恩恵を受けられるような、教育関係がよいのでは。奨学金がいい。継続性もある」

「郷土芸能の復活は。今残っているのは木場の棒踊りだけ、町の無形文化財だが年に2万5千円の補助しかない。ほかにもいろいろな農民芸能がある」

「町には金がない。大野以北の開発、山田の区画整理がやれるのか。都市計画のいろいろな調査をやらなければならぬ。それに使ってもいいのだからか」

「祭りもいいが今までのようなやり方だとだめだ」

「人が集まらない」

「みんなが気楽に楽しめるのがよい。24時間を使ってコンサートや映画もよい。若い人に興味をもってもらい参

つ検討してみるか」

「一つ一つ検討するのは各自がやって次の会議(6月9日)で考えれば」

「このアイデアはまだアイデアとしては未整理で、思いつき程度だと思ふ。だから、これを基に別のアイデアを考えてよい」

「公園案が多いので、いくつかある公園の案を足したりしていいと思う」

「この中から選ぶという考えではなく、これを踏まえてもっとよいアイデアはないか、智慧を出していかないと」

「募集したアイデアは尊重したい。金巻の池の活用案など、以前、町で考えたこともある」

「日本一横長のスベリ台はおもしろい。建設省はうんと言わないだろうか」

「河川敷で花いっぱい運動をしようとしたときも、建設省はいい顔をしなかった」

「しかし、そんなに黒崎には公園が少ないのだろうか。児童公園がかなりあるのでは」

「加してもらいたい」

「祭りやイベントをやるとすると役場が中心になる。そうではなくて、行政を引っ張っていく民間団体があるといいのだが。役場だけでは」

「町民も自治会も役場だけに頼ってはだめだ。行政だっただけだ」ということはわかっていると思うよ」

「黒崎は選挙、選挙で政治が安定してない。住民の協力も得られない。ひじょうにやりにくい町になってしまった」

「イメージが悪くなった」

「イメージアップ、CIも必要だ。交通安全など広報がかなり役に立った」

「形のないものに1億円は使うべきだ」

「東京県人会を作たらどうかという話もある。人間や文化、情報の交流をする。これから先、ますます東京が近くなる」

「老人憩の家を移転新築するわけだから、そのとき広場や公園を造ったらどうか」

「1億円を民間会社に貸して増やしてもらおうか」

「いや、黒崎の場合、町民がバラバラなので、まとまるよ

「草刈りは地域の人ややってもらわないと。何でもかんでも役場がやれ、自分たちは使わなくていい」

「町民アンケートでも公園は総合病院と並んでトップだ。このアイデアも多い。だからといって、1億円を使っているかどうか、1億円では5、6反用地買収したらなくなってしまう」

「用地買収や施設には使うべきではない。そういうのは一般財源でやるのが当たり前だ。やはり、国が例として示した人材育成、地域間交流、国際交流、伝統文化の継承、町のイメージづくり、イベント、地域情報化の推進、生涯学習などのソフト事業に使うべきでは。ハード事業でもないとは言っているが」

「使いみちは国に報告することになっている」

「しかし、何に使ってもいいわけだ。交付税なのだから文句は言えない」

「国は地方にアイデアを出させるというか、借してくれと

「使っているよ」

「うな何かがいい。花いっぱいとか植樹はいいと思う」

「自分たちで何かしようとして個人やサークル、団体、自治会に補助してあげたい。そういう会はあると10万円あれば助かるという会だと思ふ。まちづくり条例みたいなものを作って、自主独立の団体や個人をバックアップしていったらいいと思う」

「この1億円の使い方は国が市町村を試しているようなものだ。智慧比べか」

「1億円でするさと創生できるわけがない」

「返す町民があったらおもしろいだろうな」

「ほかの市町村もまだ決めていない所が大半だ。新潟市は国際交流の基金にするらしい。どこも住民のアイデアを募ったり、委員会を作ったりしている」

「1億円にこだわったり、アイデア競争に終始してはだめだ。黒崎町に何が足らないのか」

「今日は、初めての会議でフリートキングでやってみた。